

平成 29 年 6 月 2 日現在

機関番号：32643

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K13074

研究課題名(和文) 復興と文化の創造 被爆都市広島のパブリック・エスノグラフィ

研究課題名(英文) Reconstructing a City, Creating a Culture: Visual Ethnographic Study on Hiroshima Today

研究代表者

松尾 浩一郎 (Matsuo, Koichiro)

帝京大学・経済学部・准教授

研究者番号：50468774

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、原爆投下日である8月6日の広島平和記念公園という象徴的な時間と空間に着目し、パブリック・エスノグラフィの手法を用いてその包括的な記録と分析を行った。本研究から明らかになったことは、8月6日の平和記念公園では、広島における原爆被災とその後の復興の過程が、きわめて多様なやり方で受け止められているということである。原爆という一つの出来事を受け止めるにも、お互いに鋭く対立しあうような複数の立場性がある。それらが一つの時空間のなかで「共存」しているありさまを、映像データを駆使して明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research project made visual records of and gave analyses on Hiroshima Peace Memorial Park on August 6, 2015, the 70th anniversary of atomic bombing. The project found that people in the park gave various interpretations to the suffering and reconstruction of Hiroshima, and took diverse actions. It shows that they shared time and space to commemorate the day of atomic bombing, though the reasons why they commemorated differed and even appeared ambivalent.

研究分野：社会学

キーワード：広島平和記念公園 平和記念式典 原爆 コメモラティブ・イベント ビジュアル調査 映像フィールドワーク 社会調査映画 ビデオ・インスタレーション

### 1. 研究開始当初の背景

東日本大震災以降、災害に関する社会学的研究はこれまで以上に精力的に行われ、被害と復興のメカニズム、人々の心理とその回復、被災コミュニティにおける追悼・慰霊や祈念のあり方などがさまざまに検討されてきた。これらは、災害の被害とともに、それに対する人々の回復力 (resilience) を描き出そうとしてきた。

しかし、これまでわれわれ (研究代表者の松尾浩一郎、研究分担者の根本雅也および小倉康嗣) は、広島における原爆被災と地域社会との関わりについて現地調査を重ねてきた中で、この未曾有の戦災が人と社会を破壊した一方で、その地域独自の文化の創出につながったと考えるようになった。特に原爆投下日における平和記念公園では、多くの人々が過去の破壊に思いをはせ、犠牲者の死を悼み慰霊に取り組む一方で、その戦災の意味を考え、未来の平和に向けて行動するなどしている。このことは、災害と地域社会の関係を理解する上で、被害と回復という軸を超えた新たな視点と方法による研究の必要性を示唆するものと考えられた。

### 2. 研究の目的

本研究では、原爆投下日である8月6日の広島平和記念公園という一つの象徴的な時間と空間に着目し、ビジュアル・エスノグラフィの手法を用いてその包括的な記録と分析を行うことを目的とした。

戦争や災害は都市や地域社会を破壊し人々に死をもたらす。しかしその他方では、新たな文化を生み出す契機ともなり得る。本研究は、災害からの復興を、被害の残存と回復の過程というよりも、被害や回復とともに新たな価値と実践が創出され展開される包括的な過程と捉える。それらの過程は、社会空間のなかにさまざまな形で複雑に表出する。本研究は、こうした社会空間のありさまを捉え、分析するものである。

調査事例として取り上げたのは、原爆による破壊から70周年を迎える広島の平和記念公園である。そこに集まる人々によって原爆の惨禍がどのように表象され、何が実践されているのかを、ビジュアル・エスノグラフィの手法を用いて微視的に調査し分析することを試みた。それを通じて、復興の社会空間において地域内外の人々がそれぞれに災害を生きなおしている (継承している) ことを明らかにし、災害と地域社会の関わりについて再考することを目指した。

### 3. 研究の方法

研究対象は8月6日の広島平和記念公園という社会空間であり、そこで繰り広げられる様々な人々による様々な行為の展開を記録し、その分析を行った。

無数の人が蟻集する混沌のようにも見える社会空間を捉えるための方法として採用

したのは、ビデオ撮影を中心とするビジュアル調査である。ビデオ撮影という手法であれば、人々の動きと音を空間ごと切り取ることが可能だからである。

また、本調査は集合観察法という手法を採用した。12ヘクタールの広さがある平和記念公園であちらこちらにいる様々な人々の様々な行為を映像に収めるためには複数の調査員が不可欠であった。たとえば、原爆投下時刻である8時15分にどのような人がどこで何をしているのかを捉えるには、同時刻に異なる場所に調査員を配置する必要がある。本調査は研究協力者も含めた12名の撮影チームを組み、各人がビデオカメラを持って撮影にあたった。公園をあらかじめいくつかのエリアに分割し、調査員を配置した。

撮影の技法については細部にわたって一定の標準化を行ったが、その上で、各調査員にはある程度の自由を許容している。そのため、得られた映像は、8月6日の平和記念公園の客観的な情景であるとともに、個々の撮影者が感じた「ヒロシマ」のリアリティでもある。

初年度の平成27年度は、主としてフィールド調査によるデータ収集とその整理を行った。81時間のビデオ映像と7時間のインタビュー音声を得られた。映像データは約2,500の断片に分割した上でコーディングを行った。インタビューデータからはトランスクリプトを作成した。

2年目の平成28年度には、主にデータ分析と成果の取りまとめ、発表を行った。映像データはさまざまな視角から編集し、複数の映像作品の制作を進めた。また、社会学研究において映像データを利用することについての方法論的な研究や、インタビューを通して得られたデータにもとづく考察、8月6日の平和記念公園という場をとりまくさまざまな背景についての検討なども行った。

### 4. 研究成果

得られた映像データをもとにして、さまざまな映像作品が制作された。

主に英語圏での発表を念頭においた長編ドキュメンタリー映画「Above the Ground」、広島平和記念公園という社会空間を写し取りそれを再現/再構築した体験型のビデオ・インスタレーション「レプリカ交響曲《広島平和記念公園8月6日》2015」、その他いくつかのショートフィルムなどである。これらの映像作品は本研究の成果として、学会大会、国際会議、報告書、ウェブサイトなどにおいて発表された。

映像作品の制作だけでなく、多角的な視点からの分析や考察もなされた。その成果は報告書 (松尾編2017) にまとめられている。それらは大別すると、方法論的考察、ビジュアル社会学的分析、8月6日平和記念公園のモノグラフ的研究の3つから構成されている。こうして展開された議論は多岐にわたって

いる。それぞれの表題を以下に列挙する。

(1) 研究プロジェクト全体の枠組みや調査方法論に関する考察については以下の4本がある。①「広島研究・原爆研究における本研究の位置」(根本雅也)、②「8月6日広島平和記念公園におけるビジュアル調査の試み」(根本)、③「集会的観察による映像データの収集」(松尾浩一郎)、④「現場の流れに身とカメラを沿わせる：8月6日の平和記念公園を見る／撮る」(岩館豊)。

(2) 映像作品の制作やその表現、映像データのメタレベル分析などに関してのビジュアル社会学的な議論については以下の4本がある。①「社会調査から観察映画へ：映画Above the Ground制作記」(松尾)、②「Above the Ground：意味の模索」(鈴木雅人)、③「広島ビジュアルエスノグラフィー研究会とアートベース・リサーチ：レプリカ交響曲《広島平和記念公園8月6日》の制作を通じて」(土屋大輔)、④「撮影映像の〈意識〉と〈無意識〉：広島平和記念公園の群衆を撮影したカメラマンたちの身体・テクノロジー・再帰的關係イメージ」(後藤一樹)。

(3) 8月6日の広島平和記念公園という場に関するモノグラフ的研究については以下の4本がある。①「8月6日の元安橋」(福山啓子)、②「広島3年目会社員Aさんの2015年8月6日夜元安橋の時空間：広島をめぐる「ローカル化」とAさんの「個人の生き方」」(加藤旭人)、③「ヒロシマ8月6日のビジュアル・エスノグラフィ：相互行為としての祈り」(後藤一樹)、④「深夜の慰霊碑前に祈る人びと：8月6日深夜の慰霊碑前インタビュー調査から」(小倉康嗣)。

なお、上述した諸研究をもとにして単行本を作成し出版する予定となっている。

本研究から明らかになったことは、8月6日の平和記念公園では、広島における原爆被災とその後の復興の過程が、きわめて多様なやり方で受け止められているということである。原爆という一つの出来事を受け止めるにも、お互いに鋭く対立しあうような複数の立場性がある。それらが一つの時空間のなかで「共存」しているありさまを、複眼的かつ包括的に捉え、ビジュアル・エスノグラフィとしてまとめることができた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

①松尾浩一郎、平和都市の形成と変容：被爆都市広島の復興過程とシンボルの役割、法学研究、査読無、90巻1号、2017、pp. 407-429。

②後藤一樹、〈祈り〉の映像社会学：広島平和記念公園における原爆死没者追悼のポリフォニーとドラマトゥルギー、哲学、査読有、

138号、2017、pp. 61-122。

③Matsuo, K., Urban Reconstruction and Symbol Systems: How Hiroshima Became a Peace Memorial City, Teikyo University Economic Review, Vol. 49, No. 2, 2016, pp. 123-137. 査読無。

④根本雅也、証言者になること：広島における被爆者の証言活動のメカニズム、日本オーラル・ヒストリー研究、査読有、11号、2015、pp. 173-192。

[学会発表] (計7件)

①根本雅也・松尾浩一郎、Above the Ground、日本文化人類学会大会、2017年5月27日、於神戸大学(兵庫県神戸市)

②Tsuchiya, D. and Hiroshima Visual Ethnography Project, Replica Symphony, "Hiroshima Peace Memorial Park on August 6" (2015). International Conference "Practicing History at the Time of Crisis in Globalization Consensus," Hitotsubashi University, Tokyo. March 4-5, 2017

③岩館豊、現場(フィールド)をより豊かに記述・表現するために：ビジュアル・エスノグラフィの実践から、質的心理学会、2016年9月24日、於名古屋市立大学(愛知県名古屋市)

④Nemoto, M., Suffering, Silence, and Storytelling: Atomic Bomb Survivors in Hiroshima. Summer School for Contemporary History "Wandering around the Fields of War Memory." Hitotsubashi University, Tokyo, July 21, 2016

⑤後藤一樹・小倉康嗣・福山啓子・加藤旭人、ヒロシマ8月6日のビジュアル・エスノグラフィ：相互行為としての祈り、カルチュラルタイフーン・パネルセッション「エスノグラフィとライフヒストリー」、2016年7月3日、於東京藝術大学(東京都台東区)

⑥土屋大輔・根本雅也・松尾浩一郎・清水もも子・岩館豊、レプリカ交響曲《広島平和記念公園8月6日》2015、カルチュラルタイフーン・プロジェクトワークス、2016年7月2-3日、於東京藝術大学(東京都台東区)

⑦Nemoto, M., Hiroshima Hibakusha. Five College Center for East Asian Studies (FCCEAS) Webinar. Online seminar. February, 17, 2016

[その他]

①松尾浩一郎編、復興と文化の創造：被爆都市広島のビジュアル・エスノグラフィ、研究

成果報告書、2017、311pp.

②土屋大輔、ABR 作品のつくりかた：レプリカ交響曲《広島平和記念公園 8 月 6 日》(2015)、哲学、138 号、2017、pp.123-150

③Suzuki, M. (Producer), and Matsuo, K. (Director). (2016). Above the Ground [Motion Picture]. Japan: Hiroshima Visual Ethnography Project

④福山啓子、広島原爆慰霊碑：深夜の祈り、東京非核政府の会ニュース、335 号、2016、p. 4

⑤松尾浩一郎、平和を祈る公園につどう人々、NPO サーベイ会報、6 号、2015、pp.4-5

⑥ホームページ等

Hiroshima in Motion

<http://www.survey-npo.jp/hiroshima>

Above the Ground Official Site

<http://www.survey-npo.jp/abovetheground>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松尾 浩一郎 (MATSUO, Koichiro)

帝京大学・経済学部・准教授

研究者番号：5 0 4 6 8 7 7 4

### (2) 研究分担者

根本 雅也 (NEMOTO, Masaya)

一橋大学・社会学研究科・研究補助員

研究者番号：0 0 7 0 7 3 8 3

小倉 康嗣 (OGURA, Yasutsugu)

立教大学・社会学部・准教授

研究者番号：4 0 6 2 6 1 9 9

### (3) 研究協力者

清水 もも子 (SHIMIZU, Momoko)

特定非営利活動法人サーベイ・研究員

後藤 一樹 (GOTO, Kazuki)

慶應義塾大学大学院・社会学研究科・後期

博士課程、日本学術振興会特別研究員

土屋 大輔 (TSUCHIYA, Daisuke)

慶應義塾大学大学院・社会学研究科・修士課程

福山 啓子 (FUKUYAMA, Keiko)

秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場

岩館 豊 (IWADATE, Yutaka)

一橋大学大学院・社会学研究科・博士後期課程

加藤 旭人 (KATO, Akihito)

一橋大学大学院・社会学研究科・博士後期課程

鈴木 雅人 (SUZUKI, Masato)

Dodge College of Film and Media Arts,  
Chapman University

長峯 ゆりか (NAGAMINE, Yulika)

東京外国語大学大学院・総合国際学  
研究科・修士課程